

まん延や耐性菌の抑圧への対策を立てています。

世界に目を転じると、今でもさまざまな感染症が猛威をふるっています。毎年数十万人もの死者を出すマラリアや、昨年、日本でも69年ぶりに国内感染者が出たデング熱、2014年から15年にかけて世界全体で1万人を超す死者を出したエボラウイルス病などの脅威が続いています。

長崎大学では、医学部、病院、熱帯医学研究所などそれぞれの組織に所属する医師や研究者が、こうした感染症とたたかい続けています。

『感染症とたたかう』は毎月1回発行し、市民の皆さまが毎日を元気に暮らしていくために役に立つ情報を分かりやすく提供するとともに、長崎大学の感染症への取り組みも紹介していきます。

私たちの暮らしと感染症

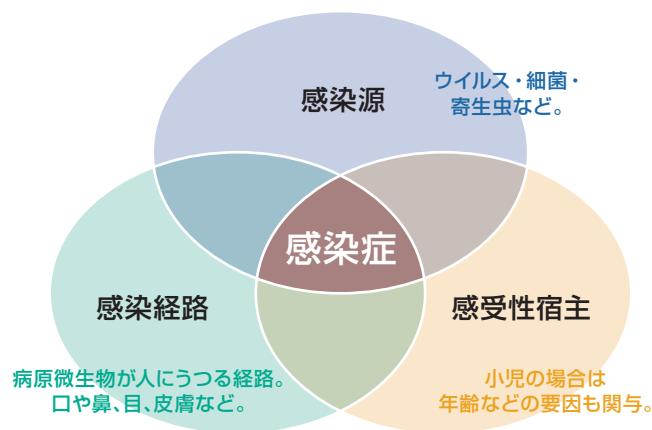


『感染症とたたかう』の中のこのコラムでは、私たちがかかる可能性の高い感染症を取り上げ、私たちができる予防や対策について解説します。年間数千万人が感染するインフルエンザ、数百万人が感染するノロウイルスなど、身近な感染症の原因、症状、対応、予防などを最新の研究成果なども踏まえて分かりやすくお伝えします。創刊準備号では、感染症とは何か、という基本の「キ」をお話します。

感染症とは何か

感染症とは、ウイルスや細菌などの病原体が体内に侵入して増殖し、発熱や下痢、咳などのさまざまな症状が出ることをいいます。感染症には、人から人うつる伝染性の感染症のほかに、破傷風やツツガムシ病などのように、動物や昆虫、

図 感染症成立の3大要因



あるいは傷口から感染する非伝染性の感染症も含まれています。感染してもほとんど症状が出ずに終わるものもあれば、一度症状が出るとなかなか治りにくく、ときには死に至るような感染症もあります。

感染症が成立する（発症する）ためには、3つの要因が必要です（図）。それは、「感染源」「感染経路」「感受性宿主」です。この3つの要因のうち、どれか1つでも防ぐことができれば、感染症を発症することはありません。

このコラムでは、感染症の3つの要因を踏まえながら、身近な感染症にかかるリスクをどう減らせればよいかなどについて、解説していきます。

創刊号からの掲載予定

- 2015年12月号（創刊号）：インフルエンザ
- 2016年1月号：ノロウイルス性胃腸炎
- 2016年2月号：RSウイルス感染症
- 2016年3月号：高齢者の肺炎
- 2016年4月号：風疹、麻疹（はしか）